

7 寺子屋だより

※題字 / 森川芳聲



もくじ

- 2 巻頭言 人のため、自分のため …… 山口 秀範
- 3 「社中」だより …… 青木 清二
- 4 偉人レポート「税所敦子」 …… 川村 雄規
- 6 宮司就任を迎えて …… 田村 邦明
- 7 偉人の言葉 …… (寺子屋モデル)
- 8 寺子屋の勉強を通して思うこと …… 武田真理子
- 9 民間人から見た教育現場⑥ …… 小田村直昌
- 10 三十八年間の
教員生活を振り返って③ …… 穴井 福代
- 11 ミャンマーと日本② …… 守田 剛
- 12 音楽家列伝(最終回) …… 武澤 陽介
- 13 立派な父と不良の息子の物語⑤ …… 廣木 寧
- 14 TERAKOYAふおとれぽーと
- 15 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 16 歌碑のこころ(7) 編集余録 余録の余録



糸島市志摩船越・綿積神社境内「万葉の里公園」

歌碑のこころ

草枕旅を苦しみ恋ひ居れば
可也かやの山辺にさ男鹿鳴くも

旅は苦しく故郷の人々を恋しく思っていると、ここからすぐ東に見える可也山で男鹿が雌を呼んで鳴く声が聞こえて来るなあ

※詳しい解説は16頁に掲載しています

人のため、自分のため

代表世話役 山口 秀範

福澤諭吉の教育観

「二万円札の顔」を渋沢栄一に譲ることが決まった福澤諭吉は、『学問のすゝめ』や『文明論の概略』を著し、明治日本を近代化へと啓蒙しました。また慶應義塾を創設した教育者でもあります。ある時「教育は何のためにするのか」と尋ねられてちよつと返答に困ります。あまりにも原理的な質問で、「人は何のために生れたのか」と問われたのと似た感覚だったからです。しばらく考えを整理してやがてこう答えました。

「教育の大眼目は人生を発達してあらゆる心身の能力を拡張し、禽獣の境界を去ること、次第にますます遠からしむるにあり」——人間と生まれて習得し得る運動力や技術、知識や記憶力、心の強さ優しさ：を精一杯開花させ、鳥獸など人間以外の動物との違いを明確にすることこそ教育の目的でありましょう——。これが諭吉の回答でした。

そしてそれに加えて「教育を受くるは自らのためにするものなり、人のためにするにあらず」——そもそも教育を受けるのは自分のためであり、誰か他人のためにするものではない——と言い切っています。

『論語』の教え

「自分のために学ぶ、ごく当たり前のようですが必ずしもそうとは限りません。今から二千五百年も前に、孔子先生は弟子たちにこう語りました。「子曰く、古の学者は己れの為めにし、今の学者は人の為めにす」と。この場合の「己れの為め」は自分の心を磨くために学ぶ、「人の為め」は他人に認められたくて勉強する、と使い分けてあるように思われます。現代風に言えば、良い成績を取って褒められたい、「優(A)」の数の多いほど就職に有利、資格を取れば給料が上がるといったたぐいでしょうか。

勿論多くの人にとって、モチベーション(動機づけ・誘因)の有無によつてその成果が大きく違つて来るのも事実です。馬の鼻先に人参をぶら下げるとのことわざは、昔から繰り返して使われています。しかし孔子は、真に学ぶべきは己自身を高める——よりよい生き方を目指す——ことであり、自らの内心から湧き上がる「求道心」抜きに上達はないと弟子たちに論じたのでしよう。内発的な動機がその人を突き動かしているのだから、或る程度の成果が出たとたんにやる気は失せて行きます。首尾よく人参を

もらった馬は、そこでのんびり休息するのがオチでしょう。

『講子劄記』の一節

吉田松陰も同じ問題について次のように記しています。

「凡そ学を為すの要は、己が為にするにあり。己が為にするは君子の学なり。人の為にするは小人の学なり」

黒船でアメリカへ渡るといふ企てに失敗して自首し、萩の野山獄に繋がれ獄中で始まった『孟子』の講義。その中で松陰が語つたのは右の一節でした。

「人の為にする学問」とは、人の役に立ち師と呼ばれるようになるための学問、「己が為にする」のは自分自身を磨こうとひたすら学ぶことでしょうか。

そして人の為を動機とする学びでは物知りにはなつても「遂に師となるに足らず」。一方「己が為にするの学は、人の師になるを好むに非ずして自ら人の師となるべし」——自分を磨こうと学ぼうと求めずして自然に師と仰がれるようになる——というのです。

自分のための学びを子供たちに

福澤諭吉の「教育を受くるは自らのためにする」も、この内心から湧き上がる探求心を大前提に語られたと思われれます。

松陰の下田踏海から百六十年余、諭吉の生きた明治から百年を経て私たちはいま令和を迎えています。私」の都合

を後回しにして「公」へと向かう気概が求められる事態は、将来に亘つていつ起こるかわかりません。普段から「いざという時私には何が出来るか」、「ささやかでも世の中のお役に立つ自分であろう」という心構えを練ることも、「自分のための学び」の中にしつかりと加えておきたいものです。



この夏、小中一貫校の開設前体験授業として「志明館」サマースクールを開講します。七月二十二日からの三週間、一〇三年の小学生対象に終日、寺子屋の偉人伝・素読暗誦は勿論、プログラミングや農業体験、絵画・唱歌・名歌のカルタ遊び等々独自のカリキュラムを用意しています。

参加する子供たちの心に、「己の為に学ぶ」の楽しさ、自分を磨く充実感を味わってもらうことが一番の狙いです。さらには学んだことを自分以外の人に役立てるといふ「志」の萌芽へとつなげたいと主催者、講師陣一同満を持しています。

ご関心をお持ちの保護者の皆様、早速ご連絡ください。



「社中」だより

「論語教室」のひと齣

第六期「寺子屋の先生」養成講座 認定講師 青木 清二

私は漠然と定年退職後の適当な時期に、論語教室を開く考えを持っていました。再就職も区切りがつき、御縁を得て第六期「寺子屋の先生」認定講師として活動しました。その後、地元での地域活動を目指して、偉人伝に加え論語の勉強を行いました。その頃、「論語教育普及機構(代表・加地伸行)」による「論語指導士」資格取得の研修がある事を知り、研修とその後試験を受け資格を得ました。これが論語教室開催の第一歩です。

論語には孔子の言葉と弟子達との会話等が約五百章句ほど記されています。論語を編集した弟子達から見れば、論語は孔子の言葉を後世に伝えるための言わば「伝承本」なのでしょう。現代人から見れば「実生活における人生訓」と言えるかも知れません。私の母も、よく「正直に」「人に迷惑をかけるな」と言っていました。その言葉は論語の「人の生くるや直し。之れ罔くして生くるや、幸いにして免るるなり」や「己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ」という章句の趣

旨と同じ意味の言葉でしょう。昔の人は学歴が無くても論語の言葉を実行していたと思います。その事を論語は、「未だ学ばずと曰うと雖も、吾は必ず之を学びたりと謂わん」と道徳の実践者は学問がなくとも既に学んだ人といえる指摘しています。戦前の父母は、論語の言わんとするところを知つて知らずか身につけていました。人々のこのような道徳意識はいつの時代にも社会を支える基本的な要素の一つだと思えます。

「論語教室」は「みんなで楽しむ論語塾」と名付け、毎月二回地元の公民館で開催しました。参加者を募る新聞折込やチラシの各戸配布をしましたが、参加者は四名のみで人集めの大変さを感じました。実感しました。教室の開催時間は一時間半、はじめに「あめんぼの歌」で発声練習をした後、テキストの素読、続いてテーマごとの論語の章句解説を行いました。

ここでは論語の重要なテーマである仁の講話のひと齣に触れます。私は最初に

論語には仁の言葉が五十八章句一〇五回も記載されており、論語の肝の部分であることを述べました。参加者の顔ぶれは小学生、女性、高齢者であり、分かり易い説明が必要と考え、テキストを準備中、もつと理解しやすい説明資料を探しました。すると、安岡定子氏の論語本に「ラージン」と「スモール仁」という記述を見つけ、その説明を図式化してテキストに書き込むことにしました。その図は、大きな円の中に小さな円を八個描いたもので、小さな円には、仁義礼智信忠孝悌の八文字を書きました。つまり、仁(思いやり)とは、八個の小さな意味の仁を含んだところの大きな意味の仁であるということです。その上で、孔子の御者をしていた弟子の樊遲が、仁を質問した時に孔子が答えた場面を取り上げました。樊遲は学問が初歩の人で、仁に関して三回も孔子に質問しています。孔子は、「人を愛す」「難きことを先にして、獲るを後にす」「居処恭しく、事を執りて敬し、人と忠なるは、夷狄に之くと雖も棄つべからざるなり」と答えました。一方、孔子が後継者と考えていた最も優秀で最愛の弟子顔回には「己に克ちて礼を復むを仁と為す」即ち、「克己復礼」が仁だと述べられています。私は参加者に仁とは、一言で云えば思いやりの意味で、論語の

各章句の仁の言葉は、孔子が仁を積極的

に意義づけせず、弟子の習熟程度に応じて、言葉を自在に変えたものだと説明しました。孔子の言葉の意味を踏まえ、仁の意味を図式化した資料を使ったことで、仁のイメージを参加者に伝えることが出来たと手ごたえを感じて仁の講話を終えました。

論語教室を経験し、人から理解を得る難しさや自分の勉強不足を痛感しています。今後は論語を更に勉強するとともに、「寺子屋の先生」認定講師の経験を活かして、人に伝える話術を磨いていきたいと思つています。

【参考図書】

- 『論語』加地伸行著 講談社学術文庫
- 『論語を楽しんで生かす本』佐久協著 主婦と生活社
- 『論語』吉田賢抗著 明治書院
- 『孔子の一生と論語』緑川佑介著 明治書院
- 『絵でみる論語』安岡定子著 日本能率協会マネジメントセンター



青木 清二

執筆者紹介■青木 清二(あおき せいじ) 福岡県久留米市出身。小都市在住。警察官退職後、自動車学校勤務を経て、第六期寺子屋認定講師。論語指導士。



「税所敦子」

Saisho Atsuko

第五期「寺子屋の先生」養成講座 認定講師 川村 雄規

【税所敦子との出会い】

皆さまは税所敦子(さいしょあつこ)を御存じでしょうか。世の中ではあまり知られていない人物かと思えます。私が税所敦子を初めて知ったのは、約一年前の国民文化研究会の勉強会でした。この時に紹介された敦子のある短歌一首(後に紹介します)が強烈に心に残ったのでしよう、その後家に帰ってから税所敦子なる人物を調べました。すると、その生き方は私が考える「偉人の人生」そのものであり、これは世の中にもっと知られるべき生き方のお手本となる人物だ。と非常に感銘を受けました。是非皆様にもこの機会に税所敦子を知ってもらい、偉人リストに追加して頂ければ幸いです。

【薩摩武士と京女】

文政八年(一八二五)三月、京都にて敦子は生まれました。家は代々宮侍(天皇家およびその分家に仕える武士)であり、小さい頃から歌や学問に触れることが多い環境で育ちました。その為、自然と敦子

も歌を学ぶようになり、当時「公家の歌聖」と呼ばれた千種有功(ちくしゆあきら)の門下で学ぶこととなりました。

千種卿の門人になった敦子は、そこで夫となる税所篤之(あつひこ)と出逢い、二十歳の時に嫁ぐことになりました。税所篤之は京都の薩摩藩邸に勤める薩摩藩士でした。男女の別が厳しい薩摩武士と学のある京女。育つてきた環境が大いに違うことに不満の種があったのでしよう、篤之は折に触れて敦子に強くあたりました。しかし、敦子は文句一つ言わず、夫に全力で尽くしました。そんな敦子を気の毒に思った友人が敦子の気持ちを聞いたところ、敦子はこう言いました「武士の妻として自分には足りないことがたくさんある。その私を夫はどうにか人並みにしようという慈悲の心で教えてくれていたのです。夫は私をいとおしく思うあまり荒い言葉を使ったり、うち叩いてしまったりするので。夫の憤りは私を愛すことが深いからで、少しも恨みません」と。歌を学び学あつた敦子が家庭に入り、

夫に誠心誠意尽くします。現代であれば仕事をバリバリしていた女性が家庭に入るようなイメージでしょうか。その環境の変化の中で辛いこともたくさんあったと思います。しかし、なぜこんな目に私が、と恨むのではなく、前向きに捉えて家庭を良くしていこうとする。たかが一家庭の話かもしれませんが、偉人とは日常生活の中で光輝く心だということをあらためて認識させられます。ちなみに、敦子の至誠は夫の反省を促し、他人が羨むほどの仲睦まじい夫婦になったといえます。

【鬼婆の心を溶かす】

夫婦は念願の女の子も得て幸せな毎日を過ごしておりました。しかしその幸せは長く続かず、敦子が二十八歳の時に夫篤之は肺病にかかり、この世を去ってしまいます。敦子は非常に悲しみ、一つの決心をします。それは「夫の故郷である薩摩(鹿児島)に行き、姑に仕えることにこれからの自分の人生を捧げよう」ということでした。周囲は大いに反対しましたが、夫婦であつたとはいえず死に別れた今、そこまでの義理はないだろう。そもそも薩摩の姑は「鬼婆」と呼ばれる大変頑固な人物であるらしい。また、向かう家は姑の他に、篤之の前妻の子供二人、篤之の弟夫婦とその子供、合計十人ほどいる大所帯とのこと。しかし、敦子は決心を曲げることなく、薩摩に向かいました。薩摩の家での敦子の気遣いは相当なも

のだったことが察せられます。姑は敦子をよそ者として事あるごとにいじめました。しかし、敦子は一心に姑に仕えます。例えば、姑が夜中に便所に行く際は、必ず障子の横で蠅燭(ろうそく)を持ちながら待機し、手を引いて連れていきました。これを三六五日欠かさなかったといえます。また姑の髪結いと食事はどれだけ自分の体調が悪くとも決して人にやらせなかつたといえます。献身的に敦子は尽くすのですが、姑は辛くあたるばかりでした。ある日、姑は敦子呼びつけこう言いました「お前は学問が好きで、歌も上手だと聞いているが、いいお題を思いついたのですぐ詠んでみよ。それは『鬼婆』だ。さあ、鬼婆にいじめられる苦しみをありのまま詠め！」と。なんといいいじめでしょう。しかし敦子は笑みを浮かべて、こう歌を詠みました。

仏にもまさる心と知らずして
鬼ばゞなりと人のいふらん

《現代語訳(姑が)仏にも勝る心を持っていいことを皆は知らずに鬼婆だと言うことよ》

私が税所敦子に興味を持ったきっかけが、この短歌です。「鬼ばゞ」という言葉にどきつとしますが、内容は優しいものです。この歌が敦子の口から発せられた時の声のトーンや空気感は清々しいものだったのだろう。と想像してしまいます。事実、さすがの姑もこの歌に感動し、徐々

に心を開き、ついには敦子がしたことではないと気に入らないという風になったといえます。歌は真実でないと感動を生まれない。敦子のこの歌には、心からの真実の想いが込められているからこそ、姑の心も溶かしたのです。

【天は見ている】

冒頭に税所敦子は私の考える「偉人の人生」を歩んだ方、と書きましたが、「偉人の人生」とはつまり、目の前のことに誠心誠意尽くすことで運命が拓かれていく人生であると私は考えています。あまたある薩摩の家の中の一未亡人であつた敦子の運命も、天に導かれるように拓かれていきます。

敦子の名声は薩摩の中で徐々に広がり、ついには藩主島津斉彬にまで届きます。斉彬は、世継ぎの男子が相次いで亡くなる中、待望の男子である哲丸(てつまる)の御守役に敦子を抜擢します。当時敦子は三十三歳。夫、姑、次は薩摩藩の世継ぎに尽くすことになったのです。しかし、翌年斉彬が亡くなり、その翌年には哲丸も病気の為に亡くなってしまいました。天は次の役割を敦子に与えます。斉彬亡き後の薩摩藩では、久光が実権を握り、その養女貞姫が近衛家に嫁ぐことになりました。今度はその老女(興入れに従う侍女の筆頭)に敦子は抜擢されます。三十九歳になりました。ここでも故郷の京都に戻ることにになりました。ここでも敦子は貞姫によく仕え

侍女たちをよくまとめたといえます。天は更に敦子に役割を与えます。時は明治に入り、敦子の知らぬところで話が持ち上がります。天皇皇后両陛下は歌を親しまれているが、女官が誰も相手ができない。誰かよい人物はいないか、と。たまたま相談された男爵の高崎正風(まさかぜ)は敦子を紹介しました。こうして敦子は五十一歳になってから宮中に仕えることになりました。ここでも皇后の歌のお相手など、誠心誠意を尽くし、両陛下より非常に愛されたといえます。

このように敦子はまるで天に導かれるように夫↓家族↓藩↓宮中と人生の舞台を変えながら歩み、七十六歳でその生を終えます。人生で残した歌は約四万首余り、人は敦子を「明治の紫式部」と呼びました。

【偉人の人生とは】

なぜ自分が税所敦子に感銘を受けたのか。社会人になってから私は納得できる人生を探しておりました。しかし、あれこれ思考を巡らしても行き着くところは「目の前の道に全力か?」という心の声でした。偉人を学びながらも、偉人は明確な目標を掲げ、その目標に沿って人生を歩んだのだろうか、いつも考えておりました。例えば二宮尊徳や西郷隆盛。彼らは人生の目標に対して戦略的に人生を設計して歩んだのだろうか。目の前のことに誠心誠意全力を尽くす中で、人生が



川村 雄規

執筆者紹介 ■川村 雄規(かわむら ゆうき)
昭和58年(一九八三)生まれ。三重県出身。普段は凸版印刷にて営業職に従事しながら、「寺子屋関西」をメンバーと共に運営。人間学、歴史、文化を次の世代に繋ぐことを人生のテーマとしている。

(参考文献)
『税所敦子力目』伝記歌文集
屋代熊太郎編 出版者 屋代熊太郎

快適空間の未来を築く。

KANSAI HOLDINGS

株式会社 **カンサイホールディングス**

〒812-0007 福岡市博多区東比恵3-32-15 TEL 092-481-9101
http://www.kansaihd.co.jp/

宮司就任を迎えて

―神意に添う事、神と共に生きる事を思う―

笹崎宮 宮司 田村 邦明

正月が終わり少し落ち着いた頃、境内の木々を見渡してみると、枯れ葉が落ちて幹と枝のみの状態の木が結構あります。普段は葉で覆われていますので、さほど意識はしていなかったのですが、幹から太い枝が伸び、徐々に細かく枝分かれしながら枝の先が天に向かって伸びている姿を見ていると、その木々の枝々が織りなすきめ細やかな面持ちや、その雰囲気を感じ出す自然の力の発露に感応し、幼少の頃からよく見ていた百科事典の身体図をふと思い出し、身体の血管や神経が体の隅々まで伸びていて各臓器と細微に亘り繋がっている姿とも重なり、「人も木も天地の恵みを頂き、それぞれが同じ様な仕組みで成り立っているものだな」と、つくづくその神秘さや自然の摂理の面白さを感じましたし、聖書には「人は神の姿に似せられてつくられた」とありますし、やはり私たち人は、神の分身であり、自然の一部である事を改めて実感させて頂いた一幕でした。

草木は地上で空気に触れ酸素を放出したり、地上の枝振り同様に地中では根が張っていて養分を吸収したりと、その働きは人の肺と腸の関係にも似ています。東洋医学では肺（空気の循環）と腸（栄養の循環）は相関関係が強い臓器と伺っておりますが、神が創り給うたモノは働きや役目が各々似ていて、例えば、「脳内細胞と宇宙、さらに付け加えるとインターネットのネットワークの構造」「細胞分裂の様子と星が消滅する様子」「瞳の画像と星雲の画像」「銀河の形状と台風の状態」等、物事はまさに相似形（フラクタル）ですし、神から生まれた同胞ですし、その事を鑑みますと先人たちから今日に至る文明の叡智を享受している私たちが、余りにも唯物的な物の見方や考え方に毒され、ややもすると世界が滅亡してしまうのではないかとというような危機状況にある現代世の中はおそらく「預めの中」で本来は神からお預かりした意味があるのではと私は思うのですが、その

ような昨今において、私たちは神の恵みと祖先の恩とに感謝し、世のため人のために奉仕し、国の隆昌と世界の共存共栄に尽くす事が第一義であり、その為にも心掛けておかねばならない事は、表現は色々ありますが「褻ぎ被え」「事改まる」「赦し」の心であると存じます。

水の結晶に例えてお示しさせて頂きますと、色は透明なので「見ず」に通じますが、水をコップに入れてその下のコースターに感謝や喜びなど良い言葉を記入したうえで声を掛けるとその水の結晶は整った美しい形を形成していくそうですし、反対に妬み嫉みなどの悪い言葉を記入し、同様に声を掛けていくとその水の結晶はグチャグチャに崩れた形を顕現するとの事です。この出来事は言霊の力を如実に表していて、言葉の波動（言の波）の働き、自分自身を含め物事を清め浄化する方法を物語っていると思います。

加えて当宮の象徴である「敵国降伏」の御宸筆が意図するところは「敵国の降伏する」と読み、「相手が靡いて降伏する」の意味で、力で支配する覇者の道ではなく徳でおさめる王者の道を説いたものとして解され、「敵が味方に、悪が善に、負が正に、禍が福に変わる」等、エネルギー転換を表しているとも理解されています。

更には、聖路加病院の日野原重明先生

の「くやしなくても、自分のところで争いを終わらせる。それが『ゆるし』です。戦争のない世の中をつくるためには、みんなが『ゆるし』の心を持つ必要があります。」のお言葉にもありますように、言葉を持ち思想する私たち一人一人がまさに物事を「被い清め」「事改め」「赦す」ことを今からでも遅くないので日常生活の中で実践していく事が急務であると思ふ次第です。

平成から令和に御代が改まりました。「令」は「神の意に従う」意味があり、まさに大自然と調和する心機一転の世の中を顕現する時代を迎えた事になります。新帝陛下の元、参拝で賑わう社頭において、ご神前に頭を垂れて手を合わせ拝む人々の姿は実に美しく、益々のご多幸とご平安を祈るばかりです。



田村 邦明

執筆者紹介 ■田村 邦明（たむらくにあき）
昭和四十三年（一九六八）福岡県生まれ。平成五年（一九九三）國學院大學神道学専攻科を修了し、同年明治神宮出仕。平成十二年明治神宮を退職。同年宮崎宮奉職、禊、権宮司を経て、平成三十一年四月宮司。

偉人の言葉

「日本の偉人100人」(上・下)から

聖徳太子

推古天皇二十一年（六一三）十二月、皇太子聖徳太子は片岡山にかけられた。道の辺に飢えたる人が臥せていた。皇太子はそばに寄られて声をかけられたが返事がない。皇太子は飢人をご覧になり、食べ物を与えられ、服を脱がれてそれを飢人に掛けられた。そして、「安に臥せれ」と言われて歌を詠まれた。

しなてる 片岡山に 飯に飢て 臥せる その旅人あはれ 親無しに 汝生りけめや さす竹の君はや無き 飯に飢て 臥せる その旅人あはれ
（現代語訳）片岡山に食べる物もなく臥せている旅人よ、ああ。親はいないのであろうか。妻はいないのであろうか。食べる物もなく臥せている旅人よ、ああ。
（『日本書紀』）

後奈良天皇

「後奈良天皇はじめ戦国時代の天皇方は」朝廷として欠くことのできない諸儀典さへ行ない得ないような御状況に追いやられ給うても、天皇という「御位」のもつ深い意義に、御身心を透徹せられ給い、ただ静かに政治する心を、また「天皇たるべきもの持つべきお心」をより純粹に、より正しく、それぞれの御生涯をかけて御親ら御修行なされ続けられ、以て、あとの代の天皇がたのためにも、意を注がれたのであった」

（小田村寅二郎著「日本思想の源流」）

北里柴三郎

「君、人に熱と誠があれば何事でも達成するよ。よく世の中が行き詰まったという人がいるが、これは大きな誤解である。世の中は決して行き詰まらぬ。若し行き詰まったものがあるならば、是は熱と誠が無いからである。つまり行き詰まりは本人自身で、世の中は決して行き詰まるものではない」

（明治三十四年、ベルリンで北里が友人に語った言葉）

久留米・福岡・東京・大阪

中堅中小企業の保険代理店

大正9年創業

御社のリスク管理部でありたい。

日商保険コンサルティング株式会社

www.tin.co.jp

◆損害保険/生命保険 取扱保険会社26社

広幅粘着加工機による環境対応商品

- 特長 ~粘着加工~
- 水生粘着加工が可能
- さまざまな後加工による一貫生産
- 1700ミリ幅の広幅粘着
- ・無溶剤による環境改善を実現
- ・プレス抜き、ハーフカット、スリット加工など
- ・布の粘着で歩留まり改善
- ・VOC対応粘着加工



日本サンダイン株式会社

本社 815-0037 福岡市南区玉川町6-1 TEL (092)541-3336 FAX (092)511-0304
 広島支店 736-0082 広島市安芸区船越南4-2-24 TEL (082)822-0330 FAX (082)822-0332
 ホームページ <http://www.sundine.co.jp> メールアドレス takamatsu@sundine.co.jp 関連会社/株式会社エヌエス化工



草と共に生きる



私たちの原点である草をモチーフにしたロゴです。大地から力強く生えていく草には、農業・緑化・環境づくりを通じ、人々の安心・安全を願うORECの思いが込められています。

株式会社オーレック <http://www.orec.jp.com>
 本社 千834-0195 福岡県八女郡広川町吉548-22 Tel:0943-32-5002(代) FAX:0943-32-6551

寺子屋の勉強を通して

思うこと

第九期「寺子屋の先生」 養成講座 認定講師 武田 真理子

私は寺子屋にご縁を頂いてから早いもので十年位経つと思いますが、何事も長くは続きにくい私がよく続いているなあと思います。約五年前に「寺子屋の先生」養成講座を受講し、その後は年に数回近郊の幼稚園や保育園に「偉人伝」を語りに行くという貴重な体験をさせて頂いています。いまだに大勢の子供たちの前でお話しする事はプレッシャーがかかりますが、途中で頭が真っ白になつたらどうしよう等と前日はよく眠れなかつたりしますが、終わった後の解放感と、勿論その日の出来不出来にもよりますが、私が伝えたい偉人の素晴らしき所を子供たちが少しでも受け止めてくれたと感じた時には、何とも言えない嬉しい気持ちになります。

最近印象に残つた事ですが、中江藤樹という江戸時代の儒学者のお話をした時の事です。藤樹先生は、人としての行いや生き方を朱子学や陽明学を通して深く研究され、教えを請うた人々には分け隔てなく真心を以つて導かれ、又ご自分にも厳しく、生涯を通して学んだことを実行された近江聖人と言われた方です。子供たちには、藤樹先生が村の人々にやさ

しい言葉で教えられたように、嘘をつかないこと、お父さんお母さんを大切にすること、ひとのものを盗らないこと、これらの言葉を「偉人伝」実演中に何度も語り、「これらの事は簡単そうに見えますがいざ本当に実行しようとする」と結構難しいんですね、皆さんも大きくなるにつれてわかると思いますよ。皆さんはまだ小さいのでちゃんと守れているでしょう？」と何気なく問いかけをした瞬間、何人かの子供たちが真剣な、というよりは深刻なまなざしで、首を横に振つたのです。五歳や六歳の子供たちがこのよう



「偉人伝」実演中の筆者

な道徳の基本のような言葉を聞いてどのように反応するだろうか少し不安でしたが、私はこの時不思議な感動を覚えたのでした。五歳にして子供たちは真剣に自分の人生を歩み始めているのだと、また人として良心の目覚めがあり、この頃の子供たちは行動の規範になるような道徳的な言葉を求めている素直に受け入れてくれたように感じました。

でもそれはひよつとすると中江藤樹という人が一生をかけて人としての道を求めた実在の偉人伝というお話ゆえに子供たちは素直に聞けたのかも知れません。若い頃から日本の文化や歴史についてほとんど勉強せずにぼーっと生きてきた私にとつて「偉人伝」をはじめあちこちでの寺子屋勉強会は、日本人力を養う為の格好の栄養素となつています。日本人は外国の文化に魅惑される国民性である、というような事を聞いたことがあります。偉人伝を少しばかり勉強して思うことは、古代から幕末に至るまでの偉人たちに共通している点は、お隣中国大陸から導入した漢字をはじめ、儒教や仏教を学問の柱として必死に学びながらも妄信することなく日本人に適合した在り方を求めました。日本人を魅了してきた中国の文化が明治以来、西洋のそれに取って代わつたようにみえます。先の大東亜戦争では米国や英国等の大国と真つ向から戦つてそして負けた後、今度は西洋文化の信奉者となりました。私などはその代

表格で、小さい頃から西洋的な価値観の中で育つてきました。テレビっ子でしたから思い出すだけでも「ポパイ」や「トムとジェリー」に「名犬ラッシー」や「ディズニー」、「奥さまは魔女」や「宇宙家族ロビンソン」、長じては「大草原の小さな家」など夢中で見ていました。最近では「刑事コロンボ」、「名探偵ポワロ」など、映画は少々古い時代の物を好んで、「風と共に去りぬ」や「サウンドオブミュージック」、「ウエストサイド物語」、「マイフェアレディ」、「ローマの休日」に「哀愁」など、当然音楽もクラシックに始まりビートルズやカーペンターズなど、こう並べてみると見事に米英文化の影響の中で育つたのだと改めて思います。でもいつの頃からかまるでかけられていた魔法の効き目が薄れたかのように色あせて見えたのです。だからといってそれらを否定するつもりはなく、確かに日本にはない快活さや美しい魅力がありましたし、私にとつて若い頃の大切な郷愁でもあります。

しかし、人生も後半に差し掛かり残された時間は、諸先輩方のお力添えを頂きながら日本人力を磨いていけたらと思つています。

執筆者紹介■武田 真理子（たけだ まりこ）
福岡生まれ。福岡女学院短大英語科卒業。東京海上火災保険九州支店に十四年間勤務。平成五年、英国に約半年間英語学校に通いながら滞在。

民間人から見た教育現場⑥

教育の現状を見つめて(4)

小田村 直昌

○五月の児童朝礼
五月一日に新天皇がご即位され、新しい元号「令和」となりました。大変おめでたく、日本中がお祝いムードになり、今年に限って十連休となつたわけであり

ます。
それでは今の小学生でこの十連休の意味が分かっていたでしょうか。私は五月初の全体朝礼を「新天皇ご即位、新元号記念朝礼」と致しました。これほどおめでたい五月の連休明けに、学校でこの連休の意義・意味」を話したり教えた

りしなければならぬからであります。本来であれば「お祝いの全校朝礼」で紅白饅頭を児童が持つて帰つてもいいぐらいです。平成の時は昭和天皇の崩御で、日本全体が喪に服しておりましたが、今般は違います。こう言いますと、全国の校長や教諭は「私は児童に話しました」という人がいるかもしれません。しかし、その方々は新元号の話をして、新天皇ご即位の話をして、お休みになつたのかわかる？」更に「四月三十日はどうしてお休み？」、「五月一日は？」こ



「新天皇ご即位 新元号記念朝礼」で話す筆者

質問しても「天皇陛下の○○」とは出てきませんでしたが、これは大変残念ではありますが、家庭でも天皇陛下の話をしていない可能性もあります。今の家庭とはそんなもんかもしれません。だからこそ、学校できつちり話さなければならぬのです。

私が講堂の舞台でどのようなことを話したかと申しますと「天皇陛下」「百二十六代」「令和」「元号」という言葉をピックアップし模造紙に記し、児童に説明をしました。ある意味「音」として覚えるようにしたわけです。そして「元号」の話の時に日本の歴史、世界で最も

歴史のある国であることを言いました。ではどうして今の学校教育現場でこのようなことを話さないのでしょうか。況して今回は天皇陛下の譲位、即位と新元号でマスコミも大騒ぎでありました。どう考えても「おかしい」の一言であります。大阪市は五月の朝礼で「いじめについて」校長から話すようにいう通達がありました。これに「天皇ご即位や新元号について」は直前に「文科省通達」で「生徒児童に広く教えるよう各学校に任せます」という緩いものであります。恐らく現場では素通りでありましょう。私はこのことはほんの一例であり、戦後教育そのものと思つております。要は文科省や社会が動いているにも拘わらず教育現場や教育委員会事務局が全く動かないという事です。戦後の現場での日教組教育は随分浸透し、見事という他ありません。組合率は低くても、現校長は元々が組合員であり、若い教師は「日教組教育」を受け、違和感など感じないのであります。

今般の朝礼で児童にプレゼントを致しました。無理を言つて歌手の「山口采希さん」に来て頂き、約三十分間歌つて頂きました。「幸せなら手を叩こう」から始まつて、「仁徳天皇の歌」「神武天皇の歌」から最後は「令和の御代」という山口さんの歌を披露して下さいました。子ども達は一生懸命聴いておりました。

山口さんはお話もして下さいましたが、「仁徳天皇のかまどの煙」の話や今年で二千六百七十九年ということ、先生方

も「目を白黒」させておりました。今の教師の実態であります。

どうしてこのような朝礼をやらぬのかと言いますと、校長はトップダウンができないのであります。やはりこれも「日教組教育」の延長であります。一般の教員に遠慮をしているわけです。「このようにしよう」とか「こうすべき」ということが言えない人が多い。決断も出来ない校長も多いと思います。これだけではありません。早く決めていかないと子供たちの教育に響いていきます。時間がない学校現場において、一つ一つを各教師に図つていたら、いい取り組み等中々出来ません。今回の朝礼にしましても私は昨年度から「子どものために」やらなければならぬと思ひ、計画し、教師に「新元号記念朝礼」をやるからと前もつて予告しておきました。本来であれば「天皇ご即位記念」というべきであつたのでしようが、事前に騒がれるとつぶされま

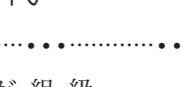
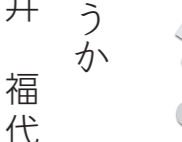
すので、そこは戦略であり、当然「山口采希さん」の来校のことも伏せておきました。このようにすべてではありませんが、教師の意見も聞きつつ最後は校長として決裁決断し、リーダーシップを発揮していかなければ、「正しい教育」など出来るわけがないのではないのでしょうか。

執筆者紹介■小田村 直昌（おだむら なおまさ）
大阪市立泉尾北小学校長。東京都出身。五十九歳。三菱東京UFJ銀行に二十九年間勤務後、民間人校長として大阪府大東市立三箇小学校に三年間勤務。その後大阪府立岡本小学校長を経て現職。小田村伊之助（稲取素彦）と吉田松陰の妹「素」の玄孫。

三十八年間の教員生活を振り返って

組織体としての学校は

どのような学校に創られるのだろうか



志明館 小学校開設準備室 穴井 福代

「チーム学校」や「学校の組織化」という言葉が学校教育ではよく使われます。

今日の学校では、いじめや不登校、学級が組織として機能しない学級崩壊などの事案が発生しています。当然、各学校はこのような事案に対応するわけですが、対応がスムーズに行く学校と、なかなかうまくいかず対応が長引いてしまう学校があります。その違いは何かといったら、学校内の組織体制がうまく機能しているかどうかの違いであることを、私は長年の経験（教育行政を含む）から学ぶことができました。

しかし、うまく言っている学校の組織を真似て、別の学校で同じような組織作りをして必ずしもうまくいきません。では、組織を機能させるには何が大切なのでしょう。

私は、年度途中の人事で校長として着任したことがあります。前任校長から引継ぎの場で聞かされたことは、「この学校は、組合意識が大変強い。そんな中で前向きな意見を出す教員が一人いるけれど、その教員が異動希望を出すといっている」というものでした。周りの職員の情報も厚く、学校のためにはぜひにも

必要な人物であるが、本人の意思は固くこれ以上の説得は難しいということでした。私は、まずは本人と会って話を聞いてみようと考えました。初めて会った場で、本人は、「私は、苦勞してやっとならなりました。しかし、ここでは学べない」とはっきりと言ったのです。私は、その言葉が重く心に突きさりました。そこで、「わかった。授業力を柱に、全職員で授業が高められる学校、切磋琢磨できる学校にしていこう。そのために私は力を惜しまない」といった内容を話しました。すると、その教員は、「微力ながら、校長先生と共にがんばらせてください」と応えてくれました。この出会いは、忘れられないシーンです。

私は、森信三氏の言葉「教育は、前進か後退しかない。現状維持を唱えた時、それは後退だと思え」を肝に銘じ、覚悟してその学校に赴任しました。そして、前進のためには、目標を明確にして同じ方向に進むことが大切だと考えました。子ども達のために力を惜しまないやる気のある教員をつぶしてはいけません。また、共感し、受入れられることも大切ですが、ゆずれないことは揺るぐことなく、

必要以上の説得は難しいということでした。私は、まずは本人と会って話を聞いてみようと考えました。初めて会った場で、本人は、「私は、苦勞してやっとならなりました。しかし、ここでは学べない」とはっきりと言ったのです。私は、その言葉が重く心に突きさりました。そこで、「わかった。授業力を柱に、全職員で授業が高められる学校、切磋琢磨できる学校にしていこう。そのために私は力を惜しまない」といった内容を話しました。すると、その教員は、「微力ながら、校長先生と共にがんばらせてください」と応えてくれました。この出会いは、忘れられないシーンです。



守田 剛

まずは自動車から

ミヤンマーでは自動車は右側通行です。英国の植民地だったので、左側通行ではないかと思っていました。昔右側に變更したようです。

しかし、通行している車のほとんどは日本から輸入された右ハンドルの中古車です。さすがに営業用の路線バスや観光バスは、乗降時の安全上の問題もあるためかほとんどが左ハンドルですが、トラック、乗用車、救急車、消防車にいたるまで日本からの中古車ばかりです。

ヤンゴン市内には約六万台のタクシーが登録されているそうです。福岡県内のタクシーの登録台数が約一万二千台なので、その多さもわかるかと思えます。走っている車の半数程度がタクシーではないかと思うほどの多さですが、そのタクシーのほとんどは日本からの中古の商用車もしくはリッターカーです。

タクシー料金は日本でのバスと同じ程度で日本人には格安。ミヤンマー人にとっても気軽に利用できる交通機関のようです。ただ、車内の清掃が行き届いておら



温泉送迎用がスクールバスへ

日本語のあふれるトラック

ず、落ち着いて身を座席に沈めて寛ごうという気分になれません。移動の手段として割り切ればいいのかもしれませんが、もうちよつと手をいれてもいいのではないかと思います。

タクシー車両にはあまり見かけられることはありませんが、トラック等には日本の会社名や商品の宣伝等の表示が残っています。また、小型のスクールバスには日本で幼稚園や温泉旅館等の送迎バスだった車両が利用されています。また、自家用バスには日本のバス会社名や学校名が残った車両を見かけます。

私はヤンゴン赴任前に、二十一年間乗った車を処分しました。こちらの状況を見て、昔の愛車に再会できるのではという希望を抱きましたが、現在は右ハンドル

確認する態度で臨むことの大切さもこの学校で学ぶことができました。

共通の目的や実践がチーム学校を創る教員一人ひとりをはじめで、自分の学級を誰にも負けないようにと熱心に取り組んでいるのですが、学校としての成果がなかなか現れてこないのはどうしてでしょう。

私は、子どもの命を守ることや、学校の危機を未然に防ぐことがいかに大事なことであるかということ、平常の危機管理なくして緊急時の危機管理はできない」などを研修しながら教職員の意識改革を図ってきました。そして、これらに対応するためには、学校が組織として動くことの必要性を考えさせました。

まずは、「共通理解・共通実践、見届け」を学年主任や生徒指導主任、テーマ研究主任を中心としての動きを作っていくべきでした。学校の最大の課題は授業力の向上でしたが、まずは、三ヶ月で子ども達の成長が捉えやすい内容としての第二の課題であった「掃除と挨拶の徹底」を共通の目標として取り組みました。

これらの取り組みは、地域の方々からも「子ども達も先生も、顔を見て元気よく挨拶してくれるようになりました」「学校が美しく、トイレや廊下が磨かれていますね」など分かりやすい結果が現れ、学校の取組みが地域の方々にも留まり、誉めていただくようになりました。子ども達が落ち着き、問題行動がぐんと減りました。さらには、職員室の雰囲気が変わり、笑顔が増え、明るい話題が飛び交つ

車の輸入は禁止されているそうです。安全面を考えると、当然の措置ではありませんが、ちよつと残念です。

鉄道車両にも 日本からの中古車は自動車だけではありません。

ヤンゴン市内には一周約46kmの鉄道の環状線があります。参考までにJR東日本の山手線と福岡都市高速道路環状線がともに一周約35kmです。この環状線を走る列車も日本からの中古車で、車体にJRと大書されているだけでなく、行先表示も日本語のままで運転されていることでもあります。行き先表示から見ると、JR東海で使用されていた車両が多いようです。

この車両も古くて汚れたものが多いのですが、昔の写真をみると、導入当初は今よりもずっときれいだっただようです。古いものを長く使うことは結構なことだと思いますが、あまり大切に扱って欲しくないようです。

環状線は線路の状態があまりよくなく速度を上げられないこと、またいくつかの駅で長く停車することなどから、一周回るのが約三時間かかります。現在日本の支援で速度向上などの機能強化事業が進んでいます。現在は一時間に二、三本程度と運行本数も少なく、バスなどの他の交通機関の連携も悪いことから利用者はあまり多くありません。

ヤンゴンはバスに依存した交通体系となつていますが、道路交通だけに頼るには人口が多すぎます。日本の支援による鉄道新線の建設事業も始まっています。

てきました。この活気は、互いの授業力を磨き合う原動力になると共に、教職員が自分たちで次々に取組みを工夫するようになって来ました。

そこで、次年度のスタートからは、授業力向上のためのプロジェクトを作り、学年や学校全体で公開する授業研究を行い協議会を行うまでに行いました。国語の授業以外に「道徳や体育の授業を見に来てください」と、自分の授業を公開し意見を求めようとする教員も現れてきました。

初めて校長になった時、試行錯誤ではありましたが、教職員の考えや思いを大切にしながら子ども達の成長のために共通理解・共通実践に取り組んできました。先生方や保護者、地域の方々にはたいそう迷惑をかけたようにも思いますが、皆様が快く協力してくださったおかげで、学校が組織として動くようになっていく感動を噛み締めながら校長としての理念、信念を築くことができ、今があることに改めて感謝しています。



穴井 福代

執筆者紹介 穴井 福代 (あらい ふくよ) 福岡教育大学卒業後、四校の小学校を経験し、福岡市教育委員会、福岡県教育委員会を経て福岡市立姪浜小学校校長に就任。福岡市教育委員会学校指導課課長の後、二校の小学校校長を務め、定年退職。

鉄道ネットワークの整備だけでなく、駅周辺の土地を有効に使い人を集める工夫をしたり、駅へは徒歩だけでなく様々な交通手段で行けるようにしたりするなど、利用者増のための施策も必要です。

自転車まで 自動車、列車のほかに自転車にも日本からの中古車が見られます。

ヤンゴンには公設の市場が数多くありますが、自転車専門の市場もあり、そこで日本からの中古車が見られています。自転車の場合、一見しただけでは日本から来たということは分からないのですが、よく見ると学校やマンションの駐輪許可証や各県の防犯登録証が残っています。

自動車工場建設

街中では日本の中古自動車が目立ちますが、新車需要は伸びているそうです。最近、日本の自動車メーカーはヤンゴン近郊での工場建設を発表しました。しかし、輸入禁止になった右ハンドルの日本車はしばらく街からなくならないと思われま

自動車部品専門の市場には、エンジンをはじめとした中古部品が並んでおり、故障しても中古部品が豊富にあるので、修理しやすくと乗り続けられるようになります。

執筆者紹介 守田 剛 (もりた たけし) 昭和三十三年北九州市小倉北区生まれ。福岡県立筑紫丘高校、京都大学工学部、建設会社を経て福岡市役所入庁。平成三十一年二月定年退職予定。

— 楽譜に刻まれた名 —



バッハが晩年を生き時代は、バロック期も終焉に向かつており、彼の音楽様式は次第に時代遅れと世間からは見做されつつあった。そのような中、バッハは栄光のバロック音楽時代の作曲技法の最後の輝きを放つ最高傑作を生み出している。

その一つが、プロイセン王に招かれたことにより書かれた作品である。音楽を愛し自分自身もフルート奏者であった王は、夜の音楽会にバッハを招いた。すでに巨匠として名を知られていた老バッハは大いに歓待され、その場で様々な演奏を求められた。王は、新しく発明された鍵盤楽器を所有しており、招かれた夜にバッハはその楽器を試し弾きをしたという。この楽器こそ、誕生したばかりのピアノである。バッハの演奏に感銘を受けた王はその場で新たに主題の旋律を与え、それを元にバッハは即興演奏を行った。そして生み出された作品が、対位法による曲集である『音楽の捧げもの』である。「対位法」とは、複数の旋律を同時

的に重ね合わせる技法のことで、バロック期に頂点を迎えた書法である。バッハは比類なき知性と感性をもつてこの曲を書き上げ、王に献上した。美しさと難解さを併せ持つこの作品は今日でも研究の対象となつている。

そして最高傑作のもう一つ、バッハの絶筆と言われている作品が『フーガの技法』である。フーガとは、対位法による音楽様式で、主題が、複数の声部によって次々と追いかけるように登場して展開される極めて高度な音楽形式で、これこそバッハによつて極められた技術なのである。その後の時代を生きた作曲家たちは、現代に至るまで、必要不可欠な対位



バッハ『フーガの技法』未完の最終ページ

法の技術を学ぶために、バッハの作品を研究している。

この『フーガの技法』という作品は、その名の通り、フーガのもつ可能性を最大限にまで追求した、偉大な知の遺産ともいべき曲集である。基本主題によつて書かれたフーガが、様々な可能性を示しつつ展開される複数の作品からできている。その中の終曲において、バッハは四つの主題を登場させる。これを専門用語で四重フーガといい、より知的で高度な技術が求められる。バッハは、一つの主題、二つ目の主題と次々と登場させ展開をさせた後、やがて最後の四つ目の主題を登場させる。それが有名な「バッハ」の名による主題である。

そもそも音は、「A」は「ラ」、「C」は「ド」などのようにアルファベットの音名を有している。バッハのスペルである「BACH」に相当する音を並べると、ある旋律が生まれる。バッハは人生初期の作品の最後の主題に、この自身の名を用い、それまでに登場した主題全てと対位法を用いて掛け合わせようと書いている途中で、この世を去ることになるのである。作品の自筆譜の最後には息子によつて、「作曲者は「BACH」の名に基く新主題をこのフーガに挿入したところで死に至った」と記されている。時代を締めくくるこの偉大な芸術作品に、自分の名を刻もうとし、

そして亡くなっていくというエピソードは、我々の感受性を大いにゆさぶる感動に満ちている。

二十世紀を代表するフランスの作曲家であったモーリス・デュリュフレの作品に『アランの名による前奏曲とフーガ』というものがある。この作品はデュリュフレの知人の作曲家であったジャン・アランに捧げられたもので、「アラン」のスペル「ALAN」に相当する音名から得られる音列を、曲の主題として用いて展開される作品である。アランは二十世紀前半の優れた若手の作曲家であったが、第二次世界大戦に従軍して戦死した。友人であったデュリュフレは、アランを偲び、彼の名を作品に刻印することで、その命を永遠に芸術作品に留めた。

音は生まれたと同時に消える儚きものであるが、そこに永遠の美を見い出す感性は、人間に与えられた不思議で神聖な能力であると思われる。我々は、先人の偉大な作品に触れることで彼らの血の通った哀歓と共感し、追体験することができ、次の時代への進むべき道標を見いだすことができるのである。

執筆者紹介 ■武澤陽介（たけざわ ようすけ）
千葉県出身。東京藝術大学を経て、同大学院修士。アカンサス音楽賞を二度受賞。元桐朋学園大学講師及び元都立総合芸術高等学校講師。現在、上野学園高等学校音楽科講師。作曲家。

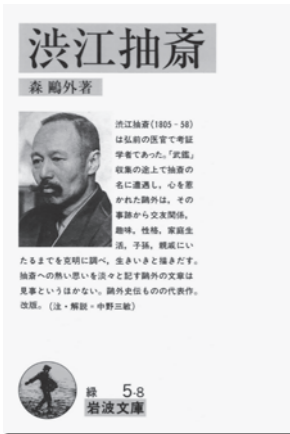
立派な父と不良の息子の物語

5

廣木 寧

（前号の続き）優善の怨みの矛先は父抽齋に向けられた。散財して親戚知友に償わしめたのもその一つであろうし、閉門三日を抽齋が言われたのもその一つであろう。まだある。

『澠江抽齋』の「その一」に、抽齋は、烟草は終生喫まなかった。物見遊山もしなかった。では何に金を費やしたか。書籍を買うことと人をはぐくむことであった。抽齋は本と人を好んだのである。その三万五千部あったといわれた抽齋の蔵書が、抽齋歿後二年目に居を移したとき、一万部に満たなかった。「その七十」にある文を引く。



『澠江抽齋』森鷗外 著（岩波文庫）

《矢島優善が台所町の土蔵から書籍を搬出するのを、当時まだ生きてみた兄恒善が見付けて、奪ひ還したことがある。しかし人目に触れずに、どれだけ出して売つたかわからない。或時は二階から本を索に繋いで卸すと、街上に友人が待ち受けてみて持ち去つたさうである。安政三年以後、抽齋の時々病臥することがあつて、其間には書籍の散佚することが殊に多かつた。》

ひとり優善だけが散佚の責を負うべきではない。「人に貸して失つた書も少くない」と今引いた文の先に鷗外は述べている。だが、優善の罪は重い。人は読むために抽齋の蔵書を借りたが、優善は父の蔵書を盗んで売ったからである。優善によつて売られた抽齋の蔵書が、抽齋歿後半世紀ほど経つた大正初年頃に、武鑑の題材を過去に求めるようになっていた鷗外にとつて、武鑑は徳川史を窮めるのに欠くべからざるものであった。「弘前医官澠江氏蔵書記」という朱印のある本にたびたび鷗外は出合い、購入したのもあった。鷗外を抽齋に引き合わせたも

のが、優善が盗掠した抽齋の蔵書であつた事は痛切な皮肉である。抽齋歿後三年の文久元年（二八六）のことである。五百は大きい本箱を三つ、七男の成善の部屋に運ばせて戸棚にしまつて、次のように告げた。

《これは日本に僅三部しか無い善い版の十三経註疏だが、お父う様がお前のだと仰つた。今年はもう三回忌の来る年だから、今からお前の傍に置くよ」と云つた。成善は後に保と改名した澠江家の跡継ぎで、この年数え五歳になる子である。大正四年に鷗外と出会い、澠江抽齋、五百をはじめとする澠江家の資料を鷗外に提供した人である。保は鷗外の五歳年長である。

《数日の後に矢島優善が、活花の友達を集めて会をしたいが、緑町の家には丁度好い座敷が無いから、成善の部屋を借りた」と云つた。成善は部屋を明け渡した。さて友達と云ふ数人が来て、汁粉などを食つて帰つた跡で、戸棚の本箱を見ると、其中は空虚であつた。》

わたしは『澠江抽齋』に綴られた、優善にかかわる箇所を読みながら、優善の悲痛な叫びを聴く思いに捕らわれる。優善は「澠江一族の例を破」るべく生まれた「破格」の子なのではない。そもそも

の優善の放蕩の発端は矢島家に養子に行かされ、「重い痘瘡を患へて、癩痕満面、人を見るを厭ふ醜貌」の娘鉄と結婚させられたことにある。鉄との結婚によつて優善はドメスティック・ハッピーネスを諦めたのではないが、十七歳、今の教え方でいえば十六歳の時に。

父抽齋は儒者であつた。先に引いたが、「抽齋は人の寸長をも見遣さずに、これに保護を加へて、幾ど其瑕疵を忘れたるごとくであつた」とあるように優善の放蕩仲間の塩田良三をも保護した。出入りの職人が病氣になつて妻と三人の子を養うことができぬを知つて長屋に住まわせ、衣食を与えた。儒者は世の慈父なのである。では、優善をなぜ鉄の矢島家に養子に遣つたか。昌庵の能弁が抽齋の「情誼」を突いたのか。五百はそこに夫抽齋の「義氣」を感得していた。それなら、優善にとつては儒者の読むテキストの文字は人の人生を殺すものでしかないではないか。父よ、あなたは世間には慈父であろう、だがわたしには、わたしという物をこちらからあらへへと売買する商人となら変わらませぬ。あなたが購入した高価な稀観本などは、わたしにとつては、浮世の笑いを満載した安価な娯楽本ほどにも価値がありません。違ふとおっしゃるならば、それなら、返してくださいませ、わたしの人生を。

“あちこちde寺子屋”のご案内

*ご案内しているものは変更する場合がありますので、事前にご確認ください。見学ご希望の方は寺子屋モデルにご相談ください。あちこちで寺子屋が開催されています。皆さんも寺子屋に参加してみませんか。「寺子屋」がお勧めする会合も併せてお知らせします。

<p>どなたでも ご参加 いただける 寺子屋</p>	<p>小倉de寺子屋 小倉商工会館 参加費…一般2,500円 …学生 500円 (年間会費25,000円)</p> <p>●7月19日(金) ●8月23日(金) ●9月20日(金) ※18:30~ 「古事記(下)」(講談社学術文庫) 講師:山口 秀範</p> <p>お申し込み 田村こすえ 090-2515-2039</p>	<p>寺子屋de日本書紀★ 寺子屋モデル会議室 参加費…1,000円</p> <p>●7月2日(火) ●8月6日(火) ●9月3日(火) ※7:30~ 「日本書紀(2)」(岩波文庫)</p> <p>お申し込み 寺子屋モデル 092-718-2080</p>	<p>小柳陽太郎先生に 学ぶ会 天神正友ビル 参加費…1,000円</p> <p>●7月 9日(火) ●8月20日(火) ●9月10日(火) ※18:30~ 「日本のいのちに至る道」 (小柳陽太郎著作集)</p> <p>お申し込み 寺子屋モデル 092-718-2080</p>
<p>森の案内所偉人伝 森の案内所 (福岡市東区香住ヶ丘) 参加費…一般1,000円 …学生 500円</p> <p>●7月16日(火) ※10:00~ ※偉人伝講話の場です。</p> <p>お申し込み 江口誠子 090-3467-4717</p>	<p>続・ししまの道 寺子屋モデル会議室 参加費…1,500円</p> <p>●7月30日(火) ●8月27日(火) ●9月17日(火) ※16:00~ ◆創作短歌を批評する会です。 短歌を作ってご参加下さい。</p> <p>お申し込み 寺子屋モデル 092-718-2080</p>	<p>寺子屋 激突!!(東京) 参加費…一般2,000円 …学生1,000円</p> <p>●7月 6日(土) ●9月21日(土) ※14:30~ 講師:山口 秀範</p> <p>お申し込み 武田 mail: terakoya@ville.jp</p>	<p>中経協朝勉強会★ 福岡中小企業経営者協会 会議室(エルガーラ6階) 参加費…1,000円</p> <p>●7月17日(水) ●8月21日(水) ●9月18日(水) ※7:30~ 「講孟笥記」(上)吉田松陰著 (講談社学術文庫)</p> <p>お申し込み 福岡中小企業 経営者協会 二宮 092-753-8877</p>
<p>其儘会(きじんかい) 水鏡天満宮(福岡市中央区天神) 参加費…一般1,000円 …学生無料</p> <p>●7月20日(土) 16:00~ ●8月 4日(日) 15:00~ ●9月28日(土) 16:00~ 「氷川清話」勝海舟述 (講談社学術文庫) 「全訳 源氏物語(1)」(角川文庫) ※参加者は20代に限られます。</p> <p>お申し込み 寺子屋モデル 092-718-2080</p>	<p>読諭会(どくゆかい) 寺子屋モデル会議室 参加費…1,000円</p> <p>●7月10日(水) ●8月20日(火) ●9月17日(火) ※10:30~(7月は10時開始) 「福翁自伝」福沢諭吉著 (講談社学術文庫) ※認定講師の研修場です。</p> <p>お申し込み 寺子屋モデル 092-718-2080</p>	<p>寺子屋関西 茨木神社参集殿2階 (大阪府茨木市) 参加費…500円</p> <p>●毎月第4土曜日 (8月と12月は休み) ※17:30~19:00 ※「偉人伝」の研究発表が主となる 場です。</p> <p>お申し込み 廣尾大輔 080-4971-8257</p>	<p>★印の勉強会 (読書会)には Skype参加が 可能です。</p> <p>ご希望の方は 事前に寺子屋モデル までご連絡ください。 (参加費1,000円)</p>

※お問い合わせ・見学希望・参加希望の方は、寺子屋モデルまで。弊社ホームページにも掲載しております。

TERAKOYA ふおとれぽーと

お宮、幼稚園、企業…寺子屋はあちこちで展開しています。「寺子屋」ってどんなところでしょう。ちょっとのぞいてみましょう。

<p>5月8日(水) すずかけ台保育園(合志市)</p>  <p>当園は年中児も年長児とともに「偉人伝」を聴く。今回は吉田喜久子さんが熊本の小国町出身の「北里柴三郎」を語りました。北里を知っているかとたずねると、知っている、(小国町に)行ったことがある、と嬉しそうに答えが返ってきました。数年後に「野口英世」に代わって、千円札に載るのよ、と誇るべきことを園児たちに語りました。</p>	<p>5月13日(月) 上社幼稚園(名古屋)</p>  <p>この幼稚園では、年長児から年少児まで全員で偉人伝を聴きます。新学期から間もないこの時期は静かに耳を傾ける習慣がまだ身についておらず、先生方はご苦労なさいます。それでもイザナギ・イザナミ両神の活躍に次第に引き込まれて、「塩こをろこをろに書き鳴して」と暗唱する頃には、皆大声が揃いました。</p>	<p>6月17日(月) 千羽会講演(福岡)</p>  <p>熊本発祥で福岡でも事業展開している企業64社の集まり「千羽会」。その年次総会後に「令和を迎えて」と題して山口が講演しました。今秋の国家的祭典「即位礼正殿の儀」と「大嘗祭」の意義と歴史を語り、皇位の安定的継承という喫緊の課題について問題提起しました。</p>
--	---	--



私たちは高耐食性鋼製ドア「ボウセイド」、*無電源自動ドア「オートアゼロ」、非溶接工法「日章構法」など、鋼製建具メーカーとして環境建築の新分野に取り組んでいます。

*平成24年11月 大分道 山田SAにて施工完了(九州地区第1号)

日章工業株式会社 本社工場
〒811-2304 福岡県糟屋郡粕屋町大字仲原2813-1
Tel 092-611-0131 Fax 092-611-0133
E-Mail info@nissho-i.co.jp

日章工業株式会社 宮田工場
〒823-0006 福岡県宮若市上大隈字番給482-49
Tel 0949-33-3408 Fax 0949-33-3405

日章工業株式会社 宇美工場
〒811-2121 福岡県糟屋郡宇美町平和1丁目15-1
Tel 092-933-0322 Fax 092-933-4709

<http://www.nissho-i.co.jp/>

新しいオフィスを描いてみよう
快適なオフィスづくりをサポートする

Solution Partner



株式会社 **レイメイ藤井**
〒812-8613 福岡市博多区古門戸町5-15
Tel.092-262-2222 Fax.092-262-2290
<http://www.raymay.co.jp>

歌碑のこころ (7)

前号(4月号)に続き遺新羅使の歌。唐泊を発ち糸島半島に沿って廻った一行は、西端の港・引津で再び風待ちをした。「旅を苦しみ」は「旅が苦しいので」の意。家族を恋しく思い出していると、折から男鹿の妻を恋うるもの悲しい声が聞こえて、望郷の念は一層深まって来たのだった。

可也山は小富士、筑紫富士とも呼ばれる美しい姿を現代も留めている。その山を見ながら船出すると、玄界灘の荒浪に見舞われつつ壹岐・対馬を経て朝鮮半島を目ざすことになる。

前号校了直後に新元号「令和」が発表された。その原典は『万葉集』でしかも前々号の表紙の歌、山上憶良の

春さればまづ咲く宿の梅の花独り見つつやはる日暮らさむ

を含む梅花の宴三十二首の序文中「時に初春の令月、氣淑く風和ぐ」に因んで元号が定められたことを知り、大いに驚き、喜びました。

本誌の編集長と印刷所の専務の発案で、昨年の年初から表紙を万葉歌碑のシリーズにしたことが、「令和」誕生の露払いを果たしたように感じられて少し誇らしい。複数の読者からも『万葉集』により親しみを覚えるとの声を頂いている。

新元号発表以来万葉ブームが続いているようだし、宴の舞台大宰府も訪問客で賑わっている。これを機にご自分で短歌を作られることをお勧めしたい。当社では毎月「続・しきしまの道会」と銘打った短歌創作と相互批評の会を開催しており、どなたでもご参加を歓迎する。

(乃)

編集余録

「寺子屋だより」第七十八号をお届けします。

六月二十日、二十三日の両日に、二月二十三日から始まった第十四期「寺子屋の先生」養成講座の修了式を実施しました。講座は、二宮尊徳、吉田松陰、聖徳太子の三偉人をその原文及び関連文献に学び、参加者各自が園児向けの「偉人伝」案を作成し、講座参加者を前に実演、批評し合うものでした。

講座修了後に参加者が書かれた「寺子屋の先生」養成講座に「参加して」を抜粋して次に示します。

《私は偉人の方々の日本のため、人のためを思ってなされた行動や思想が、今回の養成講座に参加した事で、今後の自身の行動にも現れてくるのではないかなと思っております。》(北九州市 女性)

《偉人について大人として詳細にそして深く知り、知ったことが少しでも行動に表せないかなと思っております。》(筑紫野市 男性)

《二人目の偉人伝実演を終えて、園児に理解してもらうにはほど遠いものでした。そういう悩みを抱えている中、宗像の「博多のびっこ幼稚園」で先輩の認定講師の方が実演をされているのを見学して感激しました。この経験は、三人目の偉人伝作成、実演にたいへん役立ちました。》(宗像市 女性)

余録の余録⑨ — 塾生への質問

教室で塾の生徒によく質問した。今、あなたたちが見える範囲で二百年前の日本にもあったであろうものは何が考えられるか、と。生徒はキョロキョロしながら考える。見ることは考えることである。

しばらく待って、私は話し出す。あなたたちは靴を履いたまま塾の建物に入ってきたが、昔の日本人は建物に入るときは、靴を脱ぎました。靴を履いたまま建物に入るの、西洋のやり方です。あなたたちは椅子に座っていますね。昔は畳なり板敷なりに座って人の話は聞きましたし、生活をしました。あなたたちは鉛筆を使って字を書きますが、昔は筆を使いました。紙も違いますね。

短いながら、この感想で養成講座がどういうものかがお解りいただけると思います。これにて、「寺子屋の先生」認定講師は一〇三人となりました。

五月中旬、北陸を旅しました。芭蕉の旅が歌枕を訪ねることだったのにならつてのことです。金沢も福井も芭蕉が歩いた土地ですが、今回は芭蕉より他の、たとえば、一乗谷、永平寺、白山神社、七尾美術館、金沢出身の文人たちゆかりの場所を訪ねることが主になりました。(最終目的地は富山でしたが、これは年来の同志に久闊を叙するためでした。)

生家跡に建つ泉鏡花記念館を探し歩いてきたときのことです。久保市乙剣宮近くのとある民家の前の「立花北枝宅跡」という木の立て札が目にはいりました。泉鏡花記念館斜め前の、昔のままの幅員の狭い小路を挟んでのところ。北枝は芭蕉の弟子で、奥州から大垣に向かう途次、芭蕉が立ち寄ったところだとありました。旅中、街道で芭蕉から不意に声を掛けられたような心持ちでした。

同封しているものに、「全国学生青年合宿教室」の案内があります。「温故知新—新しい時代に生きる日本の心」というテーマで展開される学問の世界への案内状です。

例年の福岡の梅雨入りは六月四日ですが、六月二十五日現在、まだ梅雨入りはしていません。しかし、小庭のあじさいはすっかり青紫の花を咲かせています。(廣木 寧)

みんなが着ているものはどうでしょう。言うまでもなく、これも違いますね。髪型も随分変わりました。電気、ガスといったものも昔はもちろんありませんでした。行灯という言葉も死語になりました。さて、私は違うところばかり挙げましたが、昔と何ら変わらないものがあります。なんででしょう。

ここでしばらく時間をとる。わたしたちが話している、そして書いている、言葉と文字です。そう、日本語です。母なる言葉です。わたしたちが今話していることは、二百年前の日本人が聞いてもよく解るのです。日本人たるアイデンティティーは、母なる言葉にあるのです。だから私たちの語る言葉は万葉の日本人にも通じるのです。一度も異国に侵されなかったおかげです。この不思議を不思議としてはいけません。(青)

寺子屋だより 令和元年7月号 (No.78)

発行日: 令和元年7月5日
発行者: 株式会社寺子屋モデル
印刷製本: 祥文社印刷(株)

〒810-0022
福岡市中央区薬院1丁目15番8-904号

TEL:092-718-2080 FAX:092-718-2081
E-mail: info@terakoya-model.co.jp
ホームページ http://www.terakoya-model.co.jp

ご意見・ご感想をお待ちしております。

